



あすもりサポーター通信



当別道民の森で「秋の育樹会」を行いました。



／開催日：2014年10月4日(土)

今年の「秋の育樹会」は33名が参加して、当別道民の森の「Fの森」と「Aゾーン」で育樹と雪害対策の作業を行いました。まず最初に「Fの森」で、2013年に植えた「ケヤマハンノキ」の剪定を行いました。積雪による枝折れや幹折れを防ぐために、雪の重みを受けやすい下枝や損傷枝を伐りました。NPO法人もりねっと北海道の山本牧さんに「どの枝のどこを伐るのか」や、「幹に対する角度」を教えてもらいながら、作業を進めました。



次は少し離れた今年春の植樹エリアでの作業です。動物の糞を見つけたり、葉が落ちた樹木に小鳥の巣の残骸を見つけたり、周囲の自然を楽しみながら移動しました。途中のクルミ平にあるクルミの木は2011年に初めて見た時よりずいぶん大きく成長していました。シンボルツリーとして、今年春に植えた「アカエゾマツ」もしっかり根付いていて、植物の生命力を感じました。



2014年の植樹エリアではオオイタドリやオオヨモギ、オオアワダチソウなど、「オオ…」が付く草が背高く伸び、苗木を覆っていました。特に、オオイタドリは手で抜こうとしても歯が立たず、いかに根が頑丈ではびこっているかを痛感しました。雨がっぱを着ているせいもあり、全員が汗だくになって、スコップで根を掘り出しては取り除きました。草の中から現れた「マユミ」の苗木の葉が真っ赤に色づいていて、秋を感じさせてくれました。



午後は「Aゾーン」で、2012年に植えた苗木の雪折れ対策を行いました。斜めに傾いたグラスファイバーの支柱をまっすぐに打ち込み直し、苗木と支柱を、昨年よりきつめに紙テープで固定しました。一昨年、昨年と徐々に雪害防止策の効果が上がり、積雪でひどく折れ曲がるケースが減ってきています。また、主軸の幹が折れても、脇から伸びた枝が力強く成長している樹種もあります。過酷な環境に適応する強い生命力を感じました。雨が激しく降る中、地道で根気のいる作業でしたが、みんなでがんばりました。来年の春が楽しみです。



富良野自然塾で植樹と自然を体験しました／開催日：2014年9月20日(土)

今年で8回目を迎える「富良野自然塾で植樹と自然を体験しよう」では昨年より多い78名(うち、子ども23名)で、環境体験をしました。まず、塾長の倉本聡さんに、地球や人類、自然、森林の関わりなどについてお話しいただきました。「木を見る時、多くの人は幹を見る。しかし、大切なのは、夏は酸素をつくり秋は大地に返って栄養となる“葉”だ」「コンクリートの車道、歩道で固められた都市は砂漠と同じ不毛地帯」など、森林の役割を再確認するお話しが印象に残りました。足元に生えていた草を使い、「根は支流、茎は河川」に見立てて話されたのも新鮮な驚きでした。午後は、地球誕生から現在までの歴史を体感するプログラムです。今年は人数が多いため、親子チームと大人チームに分かれて、46億年を体感するコースを旅しました。



最後は、ゴルフ場跡地への植樹です。今年は「ダイアナの8」という区画に、「ホオノキ」「ヤマザクラ」「ヤマモミジ」の3種類を、再生紙ダンボールから作った紙枠型を使うカミネコンという方法で96本植樹しました。「桜の咲くころにまた来たい」と、自分の植えた苗木や植樹地を写真におさめる方もいらっしゃいました。





南空知・石狩B地区 栗山植樹地観察&収穫体験・宝水ワイナリー見学 2014年8月29日



栗山町の植樹地で森林組合の方に森づくりのお話を聞いた後、これまでに植樹した苗木の成長の様子を観察しました。最初の年に植えた木はずいぶん大きくなっていて驚きました。スズメバチやダニ・アブ対策の大切さ、平地に近い森の散策と山奥では装備が異なるというお話は今後の活動に役立つ内容でした。続いて、湯地の丘自然農園ではじゃがいもの収穫体験、宝水ワイナリーでは建物の2階からブドウ畑を見渡ししながら、ワイン造りを教えていただきました。

釧路地区 NPO法人ましゅうの里の植樹地訪問 2014年10月3日

今年の「北海道の森づくり交流会」でお話を聞いたのをきっかけに、「NPO 法人ましゅうの里」が森の再生に取り組んでいる、阿寒国立公園内の摩周岳付近の山の植樹地を訪問しました。「こんなところを登るの？」とひるむような急こう配をロープを伝い、転びながらようやく山頂へ。藤理事長から、植樹に至るまでの経緯やシラカンバが育たない現状などの説明を聞いた後、1人1本アカエゾマツを植えてきました。



旭川地区 突哨山・森のふれあいと間伐体験 2014年10月13日

「NPO 法人もりねっと北海道」の協力で、充実した森の学習と間伐体験ができました。午前中は約70年前に樹木を伐採して畑に利用した後、長期間放置されていた場所に、植樹して再生した森を歩きました。シラカバ、ミズナラ、カツラなど、生えている樹種によって森の歴史を知る＝「森を読む力」を学習しました。午後の間伐体験では、どの木を生かすかを選び、伐った木は森の一員に還っていく＝「間伐の重要性」を実感しました。森を育てる作業の大切さを学んだ一日でした。



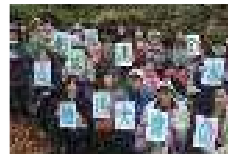
帯広地区 池田町じゅんの森の散策と花炭づくり 2014年10月21日



「NPO 法人トカプチの森」の協力で、池田町にある「じゅんの森」の散策と花炭づくりを体験しました。身近な材料を炭に仕上げる「花炭」に興味を持って参加した方が多く、花束や根菜、竹筒など、さまざまな材料を持参されていました。炭窯に材料をセットした後、晩秋の森へ出かけました。カエデが美しく色づいていました。森から戻ると、花炭が素敵に仕上がっていて、みなさん満足げでした。午後はJA池田町の氷温貯蔵庫と豆選別工場を見学しました。

札幌西地区 COOPの天然水の源水を見に行こう 2014年10月27日

紅葉がすっかり終わった晩秋の東川町へ、71名で「コープの天然水」の工場・大雪水資源センターと大雪旭岳にある源水池をみてきました。工場見学の後、森の中の源水池へ、木道を通って向かいました。旭岳の雪解水がゆっくりと大自然の森でろ過され、まるやかな水となってこんこんと湧き出していました。天然水の希少性と、美味しい水を育む森林の大切さを再確認できました。



函館地区 もっと知りたい森のこと！木の名前！ 2014年11月15日

函館で初積雪となった日、北海道立総合研究機構森林研究本部林業試験場道南支場を訪問しました。風もなくしんと降る雪が樹々に映え、とても素敵な観察会となりました。前庭で針葉樹を中心に観察した後、室内に移動して樹木の特徴や見分け方を教えていただきました。親子で参加した方からは「木の見分け方を学べたのがよかった。子どもは葉っぱのスタンプで模様を付ける、エコバッグづくりが楽しかったようです」との感想が寄せられました。



苫小牧地区 ウトナイ湖散策 2014年11月18日

日本野鳥の会レンジャーの方のご案内で、湖周辺の林を散策しました。ハンノキとミズナラが多く、リスがハンノキの実をカリカリと食べている姿をよく見かけるそうです。ミズナラの下にはドングリがたくさん落ちていました。湖面には渡り鳥のマガンやカモ、ハクチョウが飛来していました。今回の散策を通して、「自然を守り、環境に配慮した暮らしをしていきたい」と思いました。

